

島根県議会が、3月16日の本会議で「竹島の日」条例を賛成多数で可決したことに対し韓国国民が激しい抗議行動を起こしている。

本条例は、明治38年2月22日の県告示で、竹島が島根県の一部となり、今年で100年になるのを機に2月22日を「竹島の日」とする内容である。

北方領土と違って、日本国政府は竹島問題を蔑ろにしてきた。北方領土の日(2月7日)が制定され、兼任が常とは言え国務大臣が置かれ、役所まであるのに反して竹島問題に関しては確かに片手落ちである。(片手落ちは差別用語か?)。

日本国政府が無為に過ごしてきた間に、韓国は竹島を実効支配し既成事実を積み重ねてきた。今回の島根県の条例可決は、日本国政府に対する痛烈な一撃である。

韓国では、日本国旗が焼かれた。外国人が、意識的・故意に、自国の国旗を焼くというのは国家に対する最大の侮辱である。にも拘らず日本人にはその様な認識がまるでない。不可思議な国民である。斯くまで骨抜きにされてしまったかと嘆かわしい限りだ。誰のせいかわか？ 閑話休題 大使館には連日激しい抗議行動が繰り広げられ、己の指を切断しての信ぜられないほどの抗議をする者まで出る始末である。韓国政府はこの民間レベルの動きを制止するどころか非公然に煽っているのではないかと疑いたくなるような対応である。

然るに、日本国政府は「冷静に！」とワンパターンで繰り返すのみである。日韓友情年なるが故に、或いは北朝鮮問題があるが故に、或いは折角の韓流ブームに水を注したくないからなのか、馬鹿の一つ覚えも良い所だ。

何故に日本は斯くまで韓国に対して卑屈にならねばならないのか。私には全く理解できない。日本がかって韓国を併合していた、そのことの贖罪意識が未だにあるのだろうか。ロシアに対抗するために当時の情勢としては止むを得ない仕儀だった筈であるが、日本のみが一方的に悪者呼ばわりされることには異議がある。日韓基本条約で新たな日韓関係が再出発した筈だ。

仮に百歩譲って日本に完全なる非があったとしても、竹島問題は別である。事は日本の主権に拘わる事項である。主張すべきは堂々と主張すべきである。

竹島が日本の固有の領土である事は疑う余地のない程自明の理である。竹島問題を考える時に思うのは、未だにマッカーサーの呪縛から抜け出し得ていないと言うことだ。歴史的に見ても日本が最初に発見し、実効的に支配してきた。韓国が古い文献を持ち出して竹島を自国領と主張しているが、その島は、鬱陵島の属島であって竹島ではない。また、1905年に日本が竹島を島根県に編入したけれども、その時国際社会からは如何なる異議もなかった。

韓国が竹島を自国領と主張するようになった直接の切掛けは、GHQが戦後竹島を日本の行政権から外した事にある。ポツダム宣言において、日本領は北海道本州九州四国と約一千の隣接島を含むとされたが、SCAPIN677号の第三項で鬱陵島、獨島(Liancourt Rocks)、濟州島を除外すると定めた。これに基づき、獨島は当時の駐韓米軍に移管され、1948年8月15日大韓民国成立により自動的に全ての領土が大韓民国に返還され回復された。これを以って韓国は竹島が韓国領土になったという主張をしている。然しながら、GHQの措置は日本の領土権を規定したのではない。その事はSCAPIN677号の覚書にも明記され、「日本との平和条約」の起草段階においても、竹島が日本の固有の領土であることが米国や米韓韓でのやり取りの中でも明確にされている。米国は、日本が竹島を古くから正当かつ有効に領有していた事実を確認している。

全く、マッカーサーは何たることをして呉れたのだろうか。日本国憲法にしても教育基本法にしても、そして領土問題にしても、回復不可能なダメージを残した。マッカーサー

の当初の狙いは完全に達成された。勿論、彼自身も米国議会における証言を見る限りにおいては、臍を噛み、失敗だったことを暗に認めているようにも覚えるが・・・果たしてどうだろうか。小生が勤める第一生命の本社ビルにはマッカーサーの執務室が当時の儘に残されているが、複雑な感情だ。

韓国は彼等の主張が正しいと飽くまでも主張するのであれば、国際司法裁判所に付託する事に同意すべきである。

日本国政府も「冷静に、冷静に」と馬鹿の一つ覚えのように繰り返すべきではない。意図的に好戦的になって対処しろとは言わないが、主張すべきを断固として、主張しなければ、何時しか韓国の主張が罷り通ってしまう。

彼の国の現政権は、日韓基本条約の精神すら無視してしまいかねない。現政権の浮揚を狙ってのことだろうか。

何れにしろ国家対国家と言う関係は、対等であるべきであり、日韓或いは日中と言う関係は過度に日本側が卑屈になっているのではないかと疑わざるを得ない。靖国問題にしても歴史教科書にしても、彼等は最初は一顧だにしていなかった筈だ。ところがこのカードが使えると味を占めた彼等は、その後カードを最大限に使っている。日本側は為す術がないというのが実態だ。悲しいけれども。